専大スポーツ
【専大スポーツ】https://www.senshu-u.ac.jp/sports/
No.449

最優秀選手賞に5人

第63回 体育会表彰式

野々村 スピードスケート　**出澤** 卓球　**鈴木** テニス　**甲斐優** バレーボール　**原田** ボクシング

式典に出席した最優秀選手賞の出澤（左から3人目）と野々村（同4人目）、最優秀新人賞の軍司（同5人目）と来賓の松木理事長（右）ら

最優秀団体賞 3年連続 スピードスケート部

2023年度に国内外の大会で優秀な成績を収めた部や個人を表彰する第63回体育会表彰式が3月19日、生田キャンパス3号館蒼翼の間で開催され、12団体136人（重複含む）の栄誉をたたえた。

最優秀団体賞はスピードスケート部が3年連続受賞の快挙を成し遂げた。主将の野々村太陽（経営4・白樺学園高）は「私たちの努力や結果を評価していただきとてもうれしく思う。団体の表彰はチームにとって誇りとなり、原動力になっていると感じている」と受賞の喜びを語った。23年度はインカレ3連覇に挑むも、惜しくも準優勝に終わった悔しいシーズンに。それでも「選手一人一人が、それぞれの大会で存在感を出せた」と専大の強さを証明する1年となった。

最優秀選手賞には異例の5人が選出され、スピードスケート部・野々村、卓球部・出澤杏佳（文3・振徳高）、ボクシング部・原田周大（法4・豊国学園高）が受賞した。

女子シングルスで二つの学生タイトルを獲得した出澤は「最優秀選手賞を受賞することができたのも、監督やチームメイトをはじめ、専修大学の関係者の皆さんの支援や応援があったからこそだと強く感じている」と周囲への感謝を口にした。

デフテニスで世界を舞台に活躍した鈴木は「この賞にふさわしい行動や成績が出せるよう、精進していく」とコメント。

また、一般社団法人大学スポーツ協会（UNIVAS）の「UNIVAS AWARDS2023―24」のパラアスリート・オブ・ザ・イヤー部門で優秀賞を受賞するなど、飛躍の年となった。

（萩原健丸・経営2）

ローラースケート1万5000㍍エリミネーションで日本新記録を樹立した高萩紗ら（文3・光丘高）

大成女子高）、テニス部・鈴木梨子（文3・浦和学院高）、バレーボール部・甲斐優斗（経営2・日南大学の関係者の皆さんの

受賞団体・選手

学生の敬称。カッコ内は部名。★は新人賞、●は校友会学生奨励賞の受賞者。

【最優秀団体賞・校友会賞】
▽スピードスケート部●
【優秀団体賞】
▽水泳部（水球）
▽フェンシング部（女子）
▽ボウリング部
【敢闘団体賞】
▽ゴルフ部（男子）
▽バスケットボール部（男子）
▽ローラースケート部
【最優秀選手賞・育友会賞】
▽野々村太陽●（スピードスケート）▽出澤杏佳●（卓球）▽鈴木梨子●（テニス）▽甲斐優斗●（バレーボール）▽原田周大●（ボクシング）
【最優秀新人賞・優秀選手賞・育友会賞】
▽軍司一冴●（スピードスケート）
【優秀選手賞】
▽齋藤慎太朗●（カヌー）▽小田祥平●（ゴルフ）▽鎌倉啓太郎★●（柔道）▽坂井冠太●▽牧野桃●（以上スキー）▽蟻戸一永●▽菊池健太●▽谷垣優斗●▽三井晃太●▽笠原光太朗●（以上スピードスケート）▽船場清華●（卓球）▽堀辰至●（東洋伝拳法）▽石川侑真●（馬術）▽淺野ケニー●（バスケットボール）▽大谷謙介●▽齋藤華南●（以上フェンシング）▽高原崇陽●（レスリング）▽浦田大暉★●▽高萩紗ら●（以上ローラースケート）
【殊勲選手賞】
▽貫井俊汰▽髙見朋夏（以上アーチェリー）▽福住修（ゴルフ）▽中山弘翔▽三谷有輝▽久保勝也（以上水泳・水球）▽松本祥汰（スキー）▽原純夢▽高見澤匠冴▽林拓磨★（以上スピードスケート）▽アリユンエルデネ・スフバット▽新阜琳太郎★（以上相撲）▽阿部悠人▽野田颯太▽福澤勇太▽星優真▽山下慧★（以上卓球）▽クベマ・ジョセフ・スティーブ▽佐藤寛太▽高橋裕心▽ジョベ・モハメド★▽介川アンソニー翔★（以上バスケットボール）▽坂井叶（バドミントン）▽甲斐孝太郎（バレーボール）▽吉成海之亮▽岡原真琴▽吉田ひなた（以上フェンシング）▽太田晃暉▽曽根敬次郎▽野坂晃誠▽渡部泰世▽西田衛人▽佐藤大斗▽伊藤翔哉▽永野颯大▽向田旭登▽上村律心★▽松村祥太郎★▽徳原誠馬★▽笠井梨瑚（以上レスリング）▽南澤奈穂（ローラースケート）
【敢闘選手賞】
▽堀越光▽竹村健太▽吉田竣希（以上準硬式野球）▽瀬川怜奈▽林望愛（以上バスケットボール）▽千葉貴世（バレーボール）▽島崎翔悟（レスリング）▽龍前葵▽浅見怜▽市村唄菜▽山田有憂（以上ローラースケート）
【日本新記録賞】
▽野々村太陽▽高萩紗ら
【功労賞】
▽相澤勝治氏（レスリング部部長）▽故・岡村誠男氏（ゴルフ部部長・顧問）▽佐藤孝博氏（アーチェリー部監督）▽渡辺卓史氏（アメリカンフットボール部監督）▽鈴木正俊氏（自動車部監督）▽故・手塚利勝氏（ボウリング部監督）▽川口暢一氏（ヨット部監督）▽久木留毅氏（レスリング部監督・コーチ）
【学生功労賞】
▽山﨑諒（体育会本部委員長＝陸上競技）▽平田和輝（体育会本部副委員長＝少林寺拳法）▽山縣龍人（体育会本部情宣局編集長）
【感謝状】
▽学生自治会▽全学應援團
【特別賞（体育会OB・OG会賞）】
団体の部▽スピードスケート部
個人の部▽出澤杏佳▽鈴木梨子▽原田周大

専大スポーツ編集部公式WEB
掲載記事を含む全文はコチラ↑
Twitter @sensuponow
Instagram sensuponow

軍司 世界で表彰台

ジュニアW杯八戸大会	1000㍍	優勝
世界ジュニア選手権	1000㍍	2位

スピードスケート部の軍司一冴（経営1・白樺学園高）が、世界の舞台で実力を発揮した。

ISUジュニアワールドカップ（W杯）の最終戦・八戸大会（2月3～4日、青森県・YSアリーナ八戸）の1000㍍で優勝を果たすと、1週間後のISU世界ジュニア選手権大会（2月9～11日、同会場）でも1000㍍で2位、500㍍で3位に入賞した。

それでも「納得のいくレースができなかった。メンタル面での課題や道具の手入れなどの反省点が浮き彫りになった試合だった」と厳しく振り返った。特に世界ジュニア選手権については「すごく悔しい」と唇をかんだ。ジュニア部門での出場は最後だったこともあり、「気持ちが入った分、空回りした」と話す。

「シニア部門でも勝ち切れるように」――。今回味わった悔しさは、来年度に晴らす。

（河上明来海・文3）

ジュニアW杯の表彰台で

坂井 学生日本一

クロスカントリー 10㎞フリー

全日本学生スキー選手権大会＝2月16～19日、秋田県・花輪スキー場

坂井冠太（経済3・十日町高）が、クロスカントリー種目の10㎞フリーで2位優勝、30㎞フリーで2位と見事な結果を収めた。

両レースで優勝を目指していた坂井は、10㎞の結果に「とてもうれしい。チームの仲間のおかげで優勝することができた」と振り返った。一方で30㎞については「優勝を逃したのはとても悔しく感じるが、自分の力を出し切り良いレースができたと思う」と前向きな気持ちを話した。

（柳田葵・経営1）

10㎞フリーで表彰台の中央に立ち、笑顔を見せる坂井

女子スラローム2日目 牧野が制す

全日本学生アルペンチャンピオン大会（技術系）＝2月5～9日、長野県・菅平高原パインビークオオマツスキー場

牧野桃（商3・八海高）が、女子スラロームの1日目で3位、2日目で優勝と好成績を収めた。

牧野は「自分なりに攻めることができ、納得のいく滑りができた。その半面、細かいミスが目立ち、反省する場面も多くあった。優勝できたことを喜びつつ、今後につなげていきたい」と、更なる成長に向けた強い意志を語った。

（柳田）

73㎏級 鎌倉が優勝

全日本学生柔道ウインターチャレンジトーナメント＝2月17～18日、奈良県・天理大学

73㎏級で鎌倉啓太郎（経営1・習志野高）が優勝を果たした。

大会は、全日本学生柔道体重別団体優勝大会の参加チームが出場する個人戦。鎌倉は2週間前に体調を崩したものの、それを感じさせない戦いぶりだった。

決勝戦では、事前に考えていた作戦に対応されたが、数少ないチャンスをものにした。「練習した成果は出せなかったが、勝ち切ることができてよかった」と振り返った。

（小池佳欧・文2）

第60回リーダースキャンプ

熱心にリーダー論を学ぶ各部の主将・主務たち

体育会各部の主将と主務が一堂に会し、部の垣根を超えて交流を深める第60回リーダースキャンプ（体育会本部主催）が2月28、29日、静岡県熱海市で行われた。

バレーボール部OBで現在はサントリーの佐々木太一氏（平6経済）が講演し、豊富な経験を後輩たちに伝授した。

その後はグループワークが行われ、各部の課題やリーダーのあり方について意見を交換。今後の目標を発表するなど、リーダーたちにとって充実した2日間となった。

（萩原）

お詫びします

第634号8面「ISU四大陸スピードスケート選手権大会」の写真に撮影者名が記載されておりませんでした。撮影者はM.Kojimaさんです。お詫びします。